

精神科看護師の365日

平成25年度から取り組んでいる日精看のテーマ「365」にちなみ、全国のさまざまな施設で働く精神科看護師の日常を紹介します。

file.10

ベテランナースの1日

独立行政法人国立病院機構北陸病院
山田恭一さん(57歳・精神科看護歴35年)の場合



写真上/プログラム終了後のアフター
(4名は病棟スタッフの皆さん)

精神科看護師になっただきかけ

医療に関心があり就職したのが精神科でした。生活療法が中心の時で患者さんと一緒に農耕の軽作業をしたり、採れた野菜を販売したりするなかで、人間同志の触れあい、「かかわること」の奥深さを知り、精神科看護の魅力が少しずつ実感しながら経験を積み、現在に至ります。

現在の仕事内容

閉鎖・開放病棟の勤務を経て、現在は、医療観察法病棟にいます。9年前に開棟したところから携わっています。医療観察法病棟ならではの治療教育プログラムを活用し、治療チームの一員とし

て多職種と連携しながら患者さんの社会復帰をめざして援助を行っています。

山田さんの

ある日のスケジュール

- 8:15 出勤、メールチェック
- 8:30 朝礼、ミーティング、患者さんの情報共有
- 8:45 拡大MDT (専門的多職種チーム) 会議
- 9:15 ユニットごとの朝の集い、個人リフレッシュの補助
- 11:00 カンファレンス
- 12:30 昼食休憩
- 13:30 患者さんの情報共有
- 13:45 治療評価会議
- 15:30 患者さんとの振り返り
- 16:00 MDT会議
- 17:30 退勤

やりがいや励みになること

患者さんが、内省・治療プログラムが進む中で様々な困難がありますが、その壁を乗り越えられるように援助し、退院が実現したときにはとてもうれしくなります(最近涙もろくなりました)。いつも1人1人と深い信頼関係が築けるように、同じ目線に立って話をするなど心がけています。また、毎日15時半にその日の患者さんと一緒に振り返りを行い、リスクアセスメントを評価し患者さんとスタッフの安心・安全を維持していくことが、やりがいになっています。

今後の目標

私が現場で培ってきた経験を活かして、1人でも多くの若い方に、関わることの大切さや幅広い精神科看護の魅力伝えたいと考えています。また、包括的暴力防止プログラム(CVPPP)のインストラクターとしても活動していますので、今後も育成に力を入れていきたいと考えております。